



HAPPY新聞

THE HAPPY SHINBUN

発行 社団法人日本新聞協会
〒100-8543
東京都千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル7階
電話:03-3591-4407
URL: www.readme-press.com

ニッポンに

もっとういっしょに「ニュースを

4月6日は「新聞をヨム日」

何かと心の痛む出来事が多く起る今日「の国」。新聞にも、事件や事故を伝える記事が目立ちます。そんな中において、読んで心があたたかくなったり、勇気がふつとわいてくるようなうれしい記事に出会うことはありますか。4月6日は「新聞をヨム日」。この日を機会に、新聞が毎日、記事を通して読む人にしあわせをはこんでいることを、皆さんにお知らせしたいと思います。

身近なしあわせをはこぶ「新聞」

例えば、誰かの庭に咲いた珍しい花のこと、小さな親切がきっかけで始まった人の交流、季節の風物や町の話題など、日常のちびちびとした出来事、ささやかな喜び、人のさまさまな生き方を見つけた記事、新聞はとてもしっかりと読まれています。3時間半の大作映画

新聞がはこんだ HAPPY NEWSキャンペーン

日本新聞協会は昨年から「新聞がはこんだHAPPY NEWSキャンペーン」を開始。新聞がはこんだHAPPY NEWSキャンペーンを、この1年、あなたを一番しあわせにした記事は？

全国から集まったしあわせ3978個

4年度のHAPPY NEWS 10点を決定。また、その人を描いた記事を通して読者に優しい気持ちや美しい気分を届けた人を「HAPPY NEWS PERSON」とし、2名1団体を選びました。

四つ葉のクローバー

「小学校の音楽の時間には、僕もみんなの後ろでカステネットを叩いていたな」「僕は「大イコ」って、僕もです」「そこの選挙委員のおしゃべり。カステネットを手にした僕も、カステネットに似たような記事に、涙がこぼれ落ちた。選挙の時代、自分も重たい責任のコメントが、委員たちを悩ませた。子に交えていました。『ラッキーパンダ』は、埼玉県所沢市のお祭りや初詣に神出鬼没。愛を見た人はその日、白ラッキーだとか。仕掛けた人は市内に住む漫画家さん。パンダの首をみるかぶって町に出る、そんな思いつきが町の人々を愉快な気持ちに。『妹がくれたメダカを釣り上げる趣味を始めた人』の記事から「風を知らなかった。風流な人って言葉、よく知ってたね。大人が感じる小さなしあわせ、わかってくれた？」フランスのリゼに通う日本人高校生たちからは「エアメールが到着。日本の新聞でみつけた記事のおかげに、盲導犬の訓練士や、バイオリンやチェロを作る人になる夢をぶくまらせているそう。他にも小中高生たちからクラス単位の応募があり、新聞から選ばれる若い世代の心にもしあわせが届いた様子」そんなHAPPY NEWSで、みんなの話を聞いていた。いつも怖い記事やむずかしい記事を書いてる委員たちまですっかり心がほぐれてしまったのでした。

さて、「HAPPY NEWS 2004」に選ばれたのは？(中面へつづく)

「新聞をヨム日」とは？
新聞の魅力や大切さをもっと知ってもらいたい、という思いから、日本新聞協会が2003年につくった記念日。4月6日を「新聞をヨム日」、同日から12日までを「春の新聞週間」として、期間中、各地でさまざまなイベントを行っています。このキャンペーンもそのひとつ。新しい生活が始まる季節、気分も新たに新聞を手にとり、あなたのHAPPY NEWSを見つけてみませんか。さっとお気になれますよ。

取り戻した心

重い障害と病気を併せて子→精神病院収容

もし記事にならない時は

このまま楽しい夏井さんだったのでしょうか、

でも神様はいました。

青森の自然の中→取り戻した心→幸せな時間

というふうになり夏井さんの生涯が私にも知らされました。

本当にうれしいです。夏井さんのように重い障害と病気を併せて

生まれた人々にとって、本当の幸せが与えられることはなかなか難しいのではないかとつくづく思います。私にも在宅で育てている重い障害と病気を併せた娘がいます。私はいつもこの子が「幸せだ」と感じているだろうか、と自問自答する毎日です。夏井さんが幸せなのだろうと感入る気持ちは、記事の中の写真の顔です。この表情を見ると喜びがこみ上げてきて「ホッ」とする気持ちもわかります。言葉が通じない人は表情で見るとすよね。心は顔に表れますよね。私も改めて娘に対して喜び、幸せを与えられる存在になりたいと思いました。(大分合同新聞 2004/12/12付 朝刊を読んで) 藤田 公子さん 42歳 大分県

取り戻した心

2002年2月、青森県津軽地方の病院で1人の男性が静かに息を引き取った。みどったのは、彼が入所していた知的障害者施設の女性看護士と男性指導員。重い障害のために生涯の大半を精神科の病院に収容されて過ごした男性にとって、この施設で過ごした最後の7年間は、ようやくたどり着いた幸せな時間だった。

捨て子、重い障害、40年以上精神病院収容の男性

本人も生年月日や性別が不明なまま、施設で暮らしていた。施設長は片時も目を離さず、冬は靴を履かせ、夏は汗拭きシートを渡して、食事や入浴の手助けを怠らなかつた。施設長は片時も目を離さず、冬は靴を履かせ、夏は汗拭きシートを渡して、食事や入浴の手助けを怠らなかつた。

津軽の自然に囲まれて



「つがるの里」に来て初めての冬を過ごす。看護士と夏井三男さん(左)

仲間に「基金」残す

「つがるの里」に来て初めての冬を過ごす。看護士と夏井三男さん(左)。施設長は片時も目を離さず、冬は靴を履かせ、夏は汗拭きシートを渡して、食事や入浴の手助けを怠らなかつた。施設長は片時も目を離さず、冬は靴を履かせ、夏は汗拭きシートを渡して、食事や入浴の手助けを怠らなかつた。

「つがるの里」に来て初めての冬を過ごす。看護士と夏井三男さん(左)。施設長は片時も目を離さず、冬は靴を履かせ、夏は汗拭きシートを渡して、食事や入浴の手助けを怠らなかつた。施設長は片時も目を離さず、冬は靴を履かせ、夏は汗拭きシートを渡して、食事や入浴の手助けを怠らなかつた。

妻の闘病支えたショートショート1778話

作家 眉村卓さん

せめて笑いで励まそうと
女房は僕を構成する一部

「妻の闘病支えたショートショート1778話」は、眉村卓さんの代表作である。この作品は、妻の闘病生活を支えながら書かれたものである。作者は、妻の闘病生活を支えながら、自分自身を構成する一部として描いている。この作品は、妻の闘病生活を支えながら書かれたものである。作者は、妻の闘病生活を支えながら、自分自身を構成する一部として描いている。

妻の闘病支えたショートショート1778話

妻へのがらの宣告から「すべてを断して一緒に闘病しよう」と決めて、一日一話を書き続ける。「やめれば病気が悪化してしまうようで」と、気持ち二人で一緒に闘病した5年間は、40年前、半年闘病を病倒したことが思い出される。死闘を覚悟すると、残された時間を節約して生きようとする思いが日増しに強くなり、二人の心が無言で合っていく。今でも振り返ると声の届く距離にいるようだ。息をひきとるまで、過密に過ごした闘病の時間は、自分の体に染みこんだまま。自分だけの秘密の時間である。当時4歳と1歳の母に似た娘たちは競い合って幸福に育っている。忘れ形見を例年育てあげた達成感もある。いずれは娘たちに母のことを書き残すつもりでいた。眉村卓さんの記事を読んでおかげで、40年前に戻り言とゆっくりと心を通わせることができたことを感嘆している。(産経新聞 2004/4/26付 朝刊を読んで) 山田 第一さん 76歳 長野県

みちのく

三陸駅構内の干し柿

互いの信頼を失った今の時代において、これほど安心して買える、平穏な風情があるでしょうか。のんびりとした心持ちの中に、人海教育の神「誠信のたけ」を体感したのは私だけではないでしょう。東洋の中のたけこそ、私たちの命なのです。(阿比留報 2004/11/20付 朝刊を読んで) 大川 宮美穂さん 44歳 宮城県

HAPPYNEWS PERSON2004

2004年度にHAPPYなニュースを届けた人々を、3名を表彰します。

- 兵庫県立舞子高等学校 (神戸市)

新入生歓迎会で被災した高校生を励ました。生徒2人が被災地へ被災地の高校生と交流し、「これぞ本当の絆」がけに高校生同士の間で交流が始まる。今年1月に同校で行われた阪神大震災10年のメモリアル行事には、この新聞の2校の高校生が特別参加した。
- 園田豪さん (記者・鹿児島県新聞記者)

昨年7月、約りの最中に体長3メートル近くのマッコロを救助する。一人で海に飛び込み体長20センチのマッコロを救助する。1人で海に飛び込み体長20センチのマッコロを救助する。1人で海に飛び込み体長20センチのマッコロを救助する。
- 赤星憲広さん (28歳・阪神タイガース)

2001-04年のセ・リーグ4年連続優勝。03年から試合での出場数に匹敵した数の走塁を全国の高校生や社会人野球選手に伝えている。その数は7年で1000人を超えた。

コメント：「野球選手である限り、この活動は続けます。新聞には、よけな社会貢献をしようと思っています。人たちが喜び上げてほしい。」

2005年度もニッポンに、もっと、いつも、いいニュースがありますように

HAPPYNEWS2005が始まります。あなたもHAPPYにしてあげてください。今度もあなたのHAPPYにしよう。